



# ノア通信

No. 36 2020年12月20日発行

## 期間限定の無料カフェオープン！

コロナで始まった2020年が、コロナが終息しなまま終わろうとしています。大変な1年だったですね。来年はどうなるのでしょうか？

さて、当会では『自然の恵みを分かち合い、互いに助け合う地域づくり』をめざし、2020年度の活動をスタートさせたのですが、計画した交流イベントの多くは参加者がいなくなったりして頓挫してしまいました。2020年度（来年3月末）はあと3ヶ月しか残っていませんが、最後まで諦めずにチャレンジしたいと考えています。そこで、考えついたのが**無料のカフェ**のオープンです。コロナで会食などが自粛されている中で批判を受けそうですし、いくら無料でも誰も来ないようなにも思います。でも、手をこまねているのではなく、今私たちに出来ることはやるべきだと考えました。とはいえ、期間限定の試み的なものです。当会ではこれまで井戸端会議やノアサロンなどを行ってきましたが、参加者はいつも5名以下で1人も集まらないこともありました。カフェをオープンしても密になる恐れはないでしょう。コロナ感染の回避に向け、様々な集会在敬遠される中、親しい人と無駄話をする機会が失われています。以前行ってきた井戸端会議のような気軽に集う場が、今こそ必要だと思うのです。また、以前自宅で子供文庫を開いていたので、絵本など子どもの本がたくさんあります。長年寄居町の主婦グループが学校や図書館で定期的に「お話会」を行ってきたのですが、今年は一度もできませんでした。来年も難しそうです。このカフェで子供に頼まれれば、絵本の読み聞かせも行いたいと考えています。小さなカフェですが子どもの居場所にもなればと願っています。

**開店予定日：令和3年1月23日～3月30日の土曜日**

**開店時間：午前11時～午後3時**

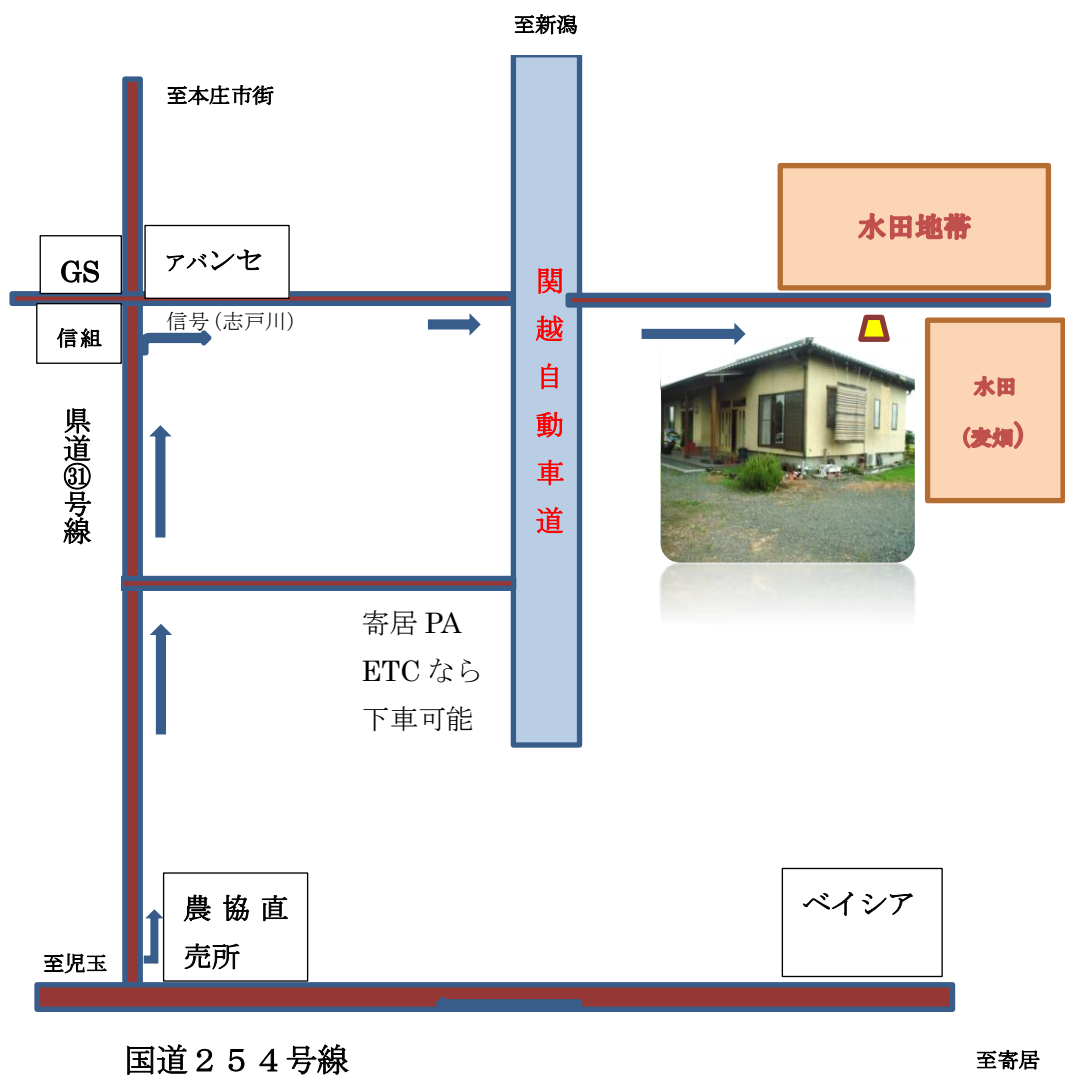
1月23日、1月30日、2月6日、2月13日、2月20日、2月27日、3月6日、3月13日、3月20日、3月27日の計10日間です。

**メニュー：ハーブティ、健康茶、発酵酵素ジュース、コーヒー**

コーヒー以外は、私たちが健康に良いと感じて飲んできた手作りの飲み物をお出しします。タダでは飲みにくいと思われる方のために、募金箱を置いておきます。また運営費に充てるため、キムチやノアの畑で採れた無農薬野菜の頒布も行います。ただし、商売ではなく必要なものを分かち合うという趣旨ですので、常にあるとは限りません。この場所で「発酵酵素ジュース作りと試飲会」，「ハクサイのキムチ作り」，「味噌作りなどのイベントも行います。ぜひお立ち寄りください。原則として新井夫婦が店番を行います。

**場所：日本エペソ教会**

交通の便が悪いため、車でないと無理ですが、道順は以下のとおり難しくありません。寄居方面から来られる場合は、254号線を農協直売所の（万葉の里）の信号を右折して本庄方面に向かって進み、埼玉信用組合とスーパーのアバンセのある信号（志戸川）を右折、関越自動車道をくぐると数分で水田に囲まれた黄土色の壁をした一軒家が右手に見えます。ここが会場の教会です（電柱に白い十字架を掲げています）。もし、道に迷ったら新井の携帯（080-8430-9585）に電話してください。



# 町長への手紙

寄居町では、町長への手紙という制度があり、町政に対する意見や疑問を町民が直接伝えることができます。今秋下記のようなメールを出したところ、返信が届きましたのでご紹介します。

回答はいかにもお役所的な無難な内容ですが、イマイチ納得できないというのが正直なところです。しかし、町民としてはこれ以上のことは出来ませんので仕方ないでしょう。

## メールの質問内容

『小生は町民のゴミの収集業務を委託されている会社に勤務している障害者の知り合いの者です。その会社から「町から委託されているゴミの収集には運転者と助手の2名が必要だが、運転免許所持者でなければ助手席に乗車できないため、免許のない知的障害者の長時間勤務の障害になっている」と聞きました。障害者雇用の促進が大きな社会課題となっている中で、役場が雇用の足かせになるような規定を設けることに疑問を持ちます。障害者に限って運転免許を所有していなくとも乗務できるようにしていただけないでしょうか？ご返答下されば幸いです』

## 町長からの回答

新井様におかれましては、町政にご提言をいただき、ありがとうございました。

さて、町では「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規定に基づき、家庭から出されたごみ（一般廃棄物）を収集・運搬し、大里広域市町村圏組合の施設で処理を行っております。また、収集・運搬業務は、新井様のお手紙にもありましたとおり業者へ委託を行っており、業務の受託者は、業務の遂行をするに足りる施設、人員及び財政的基礎を有し、業務の実施に関し相当の経験を有する者であること、と政令で規定されております。

業務委託における「同乗する作業員」の要件としましては、契約書において本業務が安全で適切に遂行されるよう交通等への配慮が十分にでき、運転業務についても行うことができる者、としております。これは運転手と共に周囲の安全確認を行うなど、免許取得者としての経験、知識に裏付けされた交通安全管理を期待するものであり、運転手に事故等があり運転ができなくなった場合など、事故発生時の業務への影響を最小限に留めることを趣旨としております。

以上のことから、発注者として業務上想定されるリスクへの必要な措置を受託者に対応いただいております。なお、大里広域市町村圏組合の管内（熊谷市、深谷市）では、同様な委託契約を行っております。

今後もこれらの事業を安定的に安全に推進していくなかで、障害をお持ちの皆様にもいろいろな形で参加をいただいでいくことにつきましては、今後の大きな研究課題であると認識しておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

担 当：生活環境エコタウン課 生活衛生班（電話 581-2121 内線 222）

町長へのEメールについての問い合わせ：総務課 秘書・シティプロモーション班（電話 581-2121 内線 315）

知人の障害者はその後退職してしまいました。現在求職中ですが、コロナ禍の中で、障害者が働ける場を探すのは容易ではありません。身体障害や精神障害の方の場合には、まだ仕事があるようですが知的障害者が働ける場は限られています。そんな若者が働ける場を自治体が率先して開拓して欲しいと願います。

## 気象庁の生物観測対象が削減

気象庁では気候の変化等を知るため、1953年から全国各地の気象台や測候所で、植物の開花日や鳥・昆虫などの初鳴き日を記録してきました。今年も植物34種、動物23種が対象になっていましたが、2021年度から植物6種のみと大幅に対象生物が削減されるそうです。理由はホテルなどこれまでの観測場所から消滅してしまった生物が増えたことや、人件費の削減のためだそうです。

今後も調査が継続されるのは、ウメ、サクラ、アジサイの開花日、サクラの開花日と満開日、イチョウとカエデの紅葉日と落葉日で、これらは地球温暖化の指標にするそうです。確かに私たちの近くから生き物が消え、観測したくても出来ない状況になってきましたし、生き物に頼らずとも気候の変動は把握できます。しかし、寂しいですね。花鳥風月を慈しんできた日本人なのに、役に立たないことは切り捨てる国になってしまったようです。実は私は毎年ウグイスやツバメ、モンシロチョウなどいくつかの生物の初鳴き日や初見日を記録しています。それはこうした生物をとおして、季節の到来の喜びを実感できるからです。友人の故内田正吉さんは、鳥や虫の足音のような生き物が発するかすかな声に耳を傾けていました。注意していないと見えなかったり、聞こえなかったりする生き物に目を向ける、そんな日本人の感性は未永く引き継ぎたいものです。

## 失敗したミニ田んぼ作りとビオトープ池

ノア通信 32号でノアの畑に水性生物の誘致と畑の水やり用に、ミニ田んぼとミニトープ池を作るとお知らせしました。予定通り、2つのミニ田んぼと3つのミニトンボ池を作ったのですが、残念ながら全て失敗に終わりました。この冬に畑に穴を掘り防水シートを敷いてから、土を半分ほど戻して雨で水が溜まるのを待ちました。春の雨で水が溜まり大成功！と思ったのも束の間、すぐに水がなくなってしまったのです。理由は防水



田んぼ（手前の2ヶ所）とミニトンボ池（奥と右手）

ートが機能せず漏水してしまったためです。ネットで検索すると、様々な池作り用の防水シートが販売されていました。その中から、安価で軽量、廃棄が容易な品を選んで購入したのですが、品選びが間違っていたようです。とはいえ、何万円もする素材はもったいないし、重くて一人で持てないのでは作業が出来ません。今冬は穴の底にコンパネを敷き、その上にブルーシートを重ねて再チャレンジするつもりです。

ところで、この場所に水を満たした容器を複数置いて、トンボの誘致も試みました。しかし、こちらも夏場に草で覆われてしまい、水面が見えない状態になってしまったため、僅かのショウジョウトンボとギンヤンマのヤゴしか発生しませんでした。ヤゴが発生したのに数が少ないのは、餌不足が原因だと思います。冬場に落ち葉や牛糞などを入れ、ヤゴの餌となるミジンコが増えるかどうか試す予定です。

## 12月～3月までの体験イベントのご案内

コロナ禍の中ですので、ご案内するのは気が引けるのですが、今年度に残っているイベントは以下のとおりです。

コロナ対策は感染防止が第一ですが、感染しても症状の出ない強い免疫力を持つ体を維持することも大切です。免疫力を高めるためには発酵酵素食品が有効だとも聞きますので、以下のような酵素食品に作りを企画しました。もしろしければご参加ください。

### 発酵酵素ジュース作りと試飲会

冬野菜やキウイフルーツを使って発酵酵素ジュース作りを行います。野菜類と砂糖のみで簡単に作れます。既に完成したジュースの試飲会も行いますので、飲み比べてみてください。

当日は瓶を持参して頂き、家で発酵させてから飲んでください。

日時：12月26日（土）10時30分～12時

場所：日本エペソ教会

参加費：無料です

申込み：メール（[tombo2@dl.dion.ne.jp](mailto:tombo2@dl.dion.ne.jp)）か、電話（080-8430-9585）で12月23日までに新井までお申し込みください。

目下一人も申し込みがありません。期限までに誰も申し込みがなければ、残念ながら中止といたします。



## ハクサイのキムチ作り

すぐに食べられるハクサイキムチを作ります。そのまま保存すれば発酵してキムチらしい味になります。ご飯を炊いて作りたてのキムチをおかずに昼食にしましょう。

参加は有料となりますが、ハクサイ 1/4 程度をお土産に差し上げます。唐辛子やヤンニョムなどは韓国産の材料を用意します。

**日時：**1月9日（土）10時30分～12時

**場所：**日本エペソ教会

**参加費：**1,000円です。

**申し込み：**事前にハクサイを塩漬けしますので、1月5日までに新井までメールか電話でお申し込み下さい。ハクサイはノアの畑で採れたものを使う予定です。

**持ち物：**エプロン、マスク、手袋

キムチ作りで難しいのはヤムニョンです。今回は失敗のないように講師の方に容易して頂いたヤムニョンを使います。韓国ではその作り方は家庭毎に異なるとのことですが、希望があれば別途ヤムニョン作りの講習会を企画したいと考えています。

## 無添加味噌作り体験

大豆と塩、麴だけの無添加味噌作りを行います。豆を煮るのが面倒ですが、作り方は簡単ですので、ぜひ体験してみてください。我が家では1年分の味噌を作っています。

今回の味噌作り体験で使用する材料は最善のものにこだわりました。大豆は近隣の自然農法農家が栽培したもので、天然の塩、水は寄居の名水「日本水」、麴は専門店から購入します。

味噌は買ったほうが安いのですが、自分で作った物を食べる喜びはお金で買えないと思います。

**日時：**2月20日（土）10時30分～12時

**場所：**日本エペソ教会

**参加費：**材料費として1,000円頂きます。2kgほどを仕込んで持ち帰って頂きます。

**申し込み：**材料を用意しますので、2月13日（土）までに電話かメールでお申し込みください。

**持ち物：**容器（2kg程度の味噌が仕込める大きさのもの）、エプロン、マスク、手袋

大豆は外で薪を使って煮る予定ですので、暖かな服装でご参加下さい。

## 第4回ノアサロンのご案内

ノアサロンは、里親など社会的養育に携わる方々との情報交換、悩み相談の場として、今年度は4回企画したのですが、コロナの影響もあり、参加者がゼロのこともありました。いよいよ最後のノアサロンになりますのでぜひご参加ください。

日時：令和3年3月4日（土）10時30分～12時

開催場所：日本エペソ教会

参加費：無料

申し込み：不要

### 同封の振替用紙について

本号が今年度最後のノア通信となります。このため、次年度会費をお送りいただくための郵便振替用紙を同封させていただきました。会員のお大半は私と同様年金生活の高齢の方で、活動には参加できないが、会員として応援してやろうと思って下さっている方々でしょう。年金で生活を支えるのは容易でないことは身を持って感じていますので、会費をお願いするのはとても心苦しいものがあります。郵便局へ出向くのも億劫ですよ。とはいえ、当会は会費と寄付金で運営されています。大変厚かましいのですが、引き続きご支援下されば有難いです。年会費は1,000円です。

### 12月まで生き残るオオアオイトトンボ

秋が深まり寒さが増すとともに、虫たちは姿を消しますが、初冬期までしぶとく生き残っている虫もいます。オオアオイトトンボもその一つで、大半は11月末で姿を消すのですが、12月に入ってもひだまり



で羽を広げて休んでいる光景を目にすることがあります。太陽の熱で体温を保っているようで、トンボに影を作って日が当たらないようにすると、すぐに日向に飛び移ります。冷たい北風が吹くと羽を閉じて風を防ぎ、風が止むと羽を開きます（前ページの写真の左は北風が吹いた時、右は風が収まった時の様子です）。体の色もこの時期になると、だいぶ黒ずんできます。熱を吸収しやすくするためかもしれません。オオアオイトトンボは初夏に羽化しますので、38度を超えるような今年の猛暑を凌いできたのでしょう。写真を撮ったのは12月4日の正午ですが、この時の気温は11.8℃とかなり肌寒く感じられました。その前日は最低気温が氷点下1.7℃を記録しました。このトンボは夏の暑さに加え、冬の寒さも体験したことになります。他の仲間のようにもっと早く死んでいれば、こんな寒さを体験しないで済んだのに気の毒です。長生きは幸運だけど、生きるのは大変だなど、人間に重ねて考えてしまいました。こうした最後まで生き抜く虫たちの姿を見ていると、自分も精一杯頑張らねばという気持ちになります。

### 寄付してくださった方がた（令和2年9月21日～令和2年12月10日）

下記の方から寄付をいただきました。有難うございます。ご支援に心から感謝致します。  
浅見千恵子様、小林亮子様、村田充子様、仮屋浩二様、大澤雄一郎様

#### 編集後記

今年も残り少なくなりましたね。今年にはコロナで社会は激変しました。コロナが終息しても元の社会に戻ることはないような気がします。

NPOの活動も社会の変化への対応が求められるでしょう。社会は変わっても、活動の目的は変わりませんので、これまでの活動の延長線上で工夫を凝らすしかありません。

では、当会はどうしたら良いのでしょうか？ 答えが見つかりませんので、無料のカフェのように、今後も思いついたことを試行してみるつもりです。

こんなことをしてはどうだろうか？というアイデアをお持ちでしたら、お聞かせ下されば幸いです。

次号は次年度に入って間もない4月に発行の予定です。まだだいぶ先のことですが、次年度もよろしくご支援の程をお願いします。

それでは皆様、どうぞ良い年をお迎えください。(Y.A)

ノア通信36号（令和2年12月20日発行）

NPO法人ノア 〒369-1205 大里郡寄居町末野1233-2 新井方

TEL&FAX：048-581-4540、E-mail：tombo2@dl.dion.ne.jp、携帯：080-8430-9585

HP：<http://npo-noah.org/>

年会費：正会員1,000円、賛助会員一口5,000円

郵便振替口座：00110-4-387364 加入者名：特定非営利活動法人ノア

銀行から送金の場合は、0一九店、当座、0387364、特定非営利活動法人ノア